



項 目	令和5年度数値目標	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
生徒の学校満足度	80%以上	85%	89%	91.0%	78.3%	80%
現役進路決定率	95%以上	90.1%	94.8%	92%	93%	92%
遅刻者数(クラス1日)	1.5人以下	5.8人	2.9人	2.39人	1.83人	1.5人
部活動加入率	80%以上	63%	75%	74%	65%	71.0%
入学者選抜1次応募倍率	1.20倍以上	1.11	0.97	0.82	1.37	1.28倍
学校説明会等参加者	1300人以上	1294人	871人	983人	1529人*	1300人

1. 今年度の取組と自己評価

(1) 学習活動

生徒の基礎学力の定着・満足度は昨年度89%から85%と高い水準で横ばい。習熟度・少人数授業満足度は昨年度87%から87%と高い水準で横ばい。『丁寧でわかりやすい授業』、『興味・関心をもたせる』を目標とし、ICT機器の積極的活用、放課後や長期休業中の補習・講習の実施、Teamsを活用した課題や小テスト、朝学習・週末課題の定着、一人1台端末を利用した学習支援ソフトの活用、英検・漢検・数検などの奨励等が評価された。また、『授業内容はわかりやすく工夫され、学力向上に役立っている』という質問に肯定的回答は85%であった。

英語検定準2級5名合格。漢字検定準2級1名、3級1名合格。

(自己評価 B) 下位層の学力底上げ、上位層の学力向上の取組を強化する。

(2) 進路指導

3年間の計画的な進路指導により、進路決定率は昨年度95%から93.7%となった。卒業課題(総合的な探究の時間)を進路指導部が担当し、将来のキャリアや進路選択への意識を高めることができた。昨年度より、専門学校、大学との連携に着手し、キャリア教育の充実を図った。

主な進路先は以下の通り

4年制大学 亜細亜大学、国士舘大学、帝京大学、拓殖大学、東京電機大学、日本体育大学、明星大学 他 70名

短期大学 実践女子短期大学、白梅学園短期大学、女子栄養大学短期大学部、東京立正短期大学 他 6名

専門学校 都立北多摩看護専門学校、戸田中央看護専門学校、国際文化理容専門学校 他 69名

就 職 ゴールドエッグ株式会社、株式会社トラク、株式会社ファインズ東京 他 17名

公務員 1名、職業能力開発センター 1名

(自己評価 B) 専門学校、大学との連携、卒業課題指導の組織的な体制を引き続き整えていく。

(3) 生活指導

生徒の生活指導理解度は昨年度86%から85%と高い水準を維持しているが、教職員の評価は23%と極めて低い。生活指導に課題があると言わざるを得ない。遅刻者数はクラス1日平均昨年度2.9人から5.8人と2.9ポイント増加した。セーフティ教室として「交通安全とSNSの危険性」、「性被害について」、「盗難について」、「薬物乱用防止・オーバードーズ」を実施。今後は、生活指導の在り方について抜本的な見直しが必要である。

(自己評価 C) 身だしなみ指導・遅刻指導・自転車のマナーについて指導の徹底を図る。

(4) 特別活動・部活動

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、合唱コンクール、体育祭、高槻祭等の行事をコロナ禍以前に戻して実施。高槻祭では近隣小学校児童を招待し、地域連携を図った。生徒主体の特別活動を推進し、生徒会活動を活性化した。今年度立ち上げた空手同好会が関東選抜大会出場を果たした。吹奏楽部、ダンス部、ボランティア部等が地域のイベントや交流に取り組んだ。

(自己評価 A) 地域や外部との連携を強化し、貢献できるようにしていく。

(5) 健康づくり

スクールカウンセラーによる1年生全員面接の実施。専門医(産婦人科医)による教職員研修会の実施。AED講習会の実施。球技大会、体育祭等の体育的行事や体育授業を通して体力向上を図った。外部特別支援教育心理士の巡回相談の実施により、生徒の心身の健康増進に努めた。

(自己評価 B) スクールカウンセラーや特別支援教育心理士との連携を強化する。

(6) 広報・募集活動

学校見学会、学校説明会、個別相談会、ミニ学校見学会等1294名の来校者があった。

ホームページ更新回数 230回、学校紹介用映像活用、ポスターパネル設置、横断幕設置、オリジナルクリアファイル制作、中学校訪問、出前授業、外部説明会参加等を実施。推薦倍率 昨年度 1.80 今年度 1.63、学力検査倍率 昨年度 0.97 今年度 1.11 と3年ぶりに二次募集を回避した。体験授業では、多くの中学生が参加した。

(自己評価 B) 今後は、本校の魅力である『授業力』、『キャリア教育の充実』をアピールしていく。

(7) 学校経営・組織体制

地域交流（富士見小学校児童文化祭招待、ボランティア部による自治会、子ども食堂、市の護美プロジェクト参加、生徒会による中央公園イベント参加等）により、地域に根ざした学校の実現。今後も部活動による地域貢献を更に発展させていく。

(自己評価 A) 魅力ある学校（丁寧で分かりやすい授業、卒業課題の充実、専門学校・大学との連携強化によるキャリア教育の充実、生徒の主体的な取組支援等）及び地域に根ざした学校を定着させ、継続して取り組む。

2. 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習活動

基礎学力の定着を基盤に、『丁寧でわかりやすい指導』、『興味・関心を持たせる指導』を目標として授業力向上を図る。朝学習・週末課題の定着、放課後や長期休業中の補習・講習、学力分析、一人1台端末の活用等により、学力向上を図る。

(2) 進路指導

卒業課題の組織的な取組により、進路活動への意欲を高める。

専門学校、大学との連携を強化し、キャリア教育の充実を図る。

(3) 生活指導

全教員で指導の在り方を共通認識し、制服指導・遅刻指導・自転車乗車時のヘルメット着用等の指導に重点を置く。

(4) 特別活動・部活動

生徒主体の学校行事、魅力ある部活動を目指す。

(5) 健康づくり

スクールカウンセラーや特別支援教育心理士と連携していく。

(6) 広報・募集活動

教職員が全員体制で広報・募集活動に取り組む。

地域及び近隣校との交流により地域に根ざした学校を目指す。

(7) 学校経営・組織体制

健全な職場の確立に取り組み、全教職員が一体となった学校運営を目指す。